

倉敷チボリ公園を巡る諸状況について

チボリ・インターナショナル社との提携契約が終了し、チボリの名称等が来年12月末までで使用できなくなるという事態を受け、その後の公園の在り方について検討しているところであるが、移行期間に限りがあること、また、来年度予算の関係等から、早急に関係の方々との協議を進める必要があり、9月議会を控えた先般9月5日に、知事が倉敷市長と会談を行ったところである。

1 知事からの説明・依頼要旨

- (1) 移行期間後は、デンマーク・チボリのブランドが失われ、公園の性格や全国に情報発信できる本県の重要な広域観光拠点としての機能が大きく変化し、県が主導して取り組んできた事業としての目的が失われることから、引き続き県が主体となって公園を支えることは困難であると考えてに至った。
- (2) チボリ公園は倉敷市の中心部にあり、また、倉敷市においては、市の重要な観光拠点であると同時に、市民の憩いの場として、さらには、倉敷駅周辺のまちづくりを進める上からも、公園を必要不可欠な施設とされており、公園の性格や機能が大きく変化することも踏まえれば、倉敷市において、現在の公園の規模や形態にとらわれず、新たな観点から幅広く、市民の公園としての活用について検討いただきたい。
- (3) 倉敷市が主体的に新たな形で公園事業に取り組むこととなれば、県としても、必要な協力について前向きに検討してまいりたい。
- (4) 今後の公園の在り方について、年内には大枠を示したいと考えており、9月市議会終了後、できるだけ早く一定の方向性を示していただきたい。

2 倉敷市長の回答要旨

今後、市議会等の意見を伺いながら検討したい。

3 今後の対応等

- (1) 倉敷市議会議長の要請を受け、市議会議員有志に対して県の考え方を説明する。
日 時：9月28日（金）午後1時30分から
出席者：島津副知事、杉企画振興部長
- (2) 倉敷市から、市民の公園としての活用について一定の方向性が示されれば、それを踏まえ、また、県議会の皆様方の意見も十分伺いながら、倉敷市やチボリ・ジャパン社、土地所有者等関係の方々との協議、検討し、公園の今後の在り方について、年内には大枠をお示ししたい。